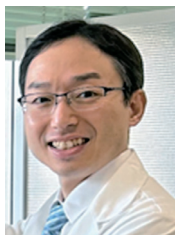


心臓リハビリテーション寄附講座



1. スタッフ

特任准教授 松澤 泰志
特任助教 金子 祥三

2. 寄附講座の特徴

近年の急速な高齢化により我が国の高齢化率は28.9%に到達し、今後も増加していくことが予測されている(令和4年版高齢社会白書)。それに伴い、我が国の高齢の循環器疾患患者数は劇的に増加している。高齢循環器患者の死亡率および再入院率は非常に高く、再入院の予防と長期予後の改善は、喫緊に取り組むべき課題である。

心臓リハビリテーション寄附講座は、そのような背景のもとに心血管疾患の臨床・研究・教育を遂行する目的で2023年4月1日に設立された。

なお、当講座のスタッフは内科部門・循環器内科の業務を兼任しており、以下3.~7.の内容は循環器内科との協働の業務内容である。

3. 診療体制・診療実績

循環器内科と協働で、心臓リハビリテーションを実施している。「心大血管疾患リハビリテーション」の対象疾患であり、急性発症または手術後の急性心筋梗塞、狭心症、開心術後、大血管疾患(大動脈解離、解離性大動脈瘤、大血管術後)、および呼吸循環機能や日常生活能力の低下を来している慢性心不全、間欠性跛行を有する末梢動脈閉塞性疾患を対象としている。

4. 高度先進的な医療の取組

植込み型補助人工心臓(LVAD)やIMPELLA(補助循環用ポンプカテーテル)補助下の患者、肺高血圧症の患者に対しても心臓リハビリテーションを実施している。

5. 研究活動

心臓リハビリテーションの有効性を臨床、基礎、トランスレーショナル研究の手法を用いて検証している。具体的には運動リハビリテーション、精神的カウンセリング、薬剤指導・薬剤介入、栄養指導・食事療法・食事介入を行うことにより、心血管ベネフィットを検証している。患者予後だけでなく、QOL、服薬アドヒアランス、フレイルの状況、心機能、動脈硬化の機能的・構造的評価、身体機能、栄養状態、腸管機能(排便状況、性状、腸内細菌、腸内細菌代謝物質等)、認知機能等多角的に検討している。

Artificial Intelligence (AI) を用いた動作解析による研究も開始している。

県内の多くの施設と心リハ推進事業を行っており、患者データのレジストリーも構築している。

6. 医療人教育の取組

解剖学、生理学、病理学、薬理学等の循環器科医師に必要な基礎教育と、診療現場における臨床教育の両者を行っている。研修医・レジデント・若手医師に対して症例検討を中心としたカンファレンスを3日/週行っており、診断プロセスの指導、治療時の実技指導も施行している。また、講義、講演、院内ワークショップに加え、院外講師を招いた講演会、院外での公開の講演も開催している。

7. 地域医療への貢献

2023年4月に熊本大学病院 心臓リハビリテーション寄附講座が新規開設となり、熊本県心リハ推進事業を開始した。まず初めに、「熊本県心リハ実態アンケート調査」を行ったところ、①外来心リハ実施率が3%と極めて低いこと、②病院間の連携に困難があること、③地域によっては心リハ実施施設までのアクセスが不良であることなど様々な問題が明らかとなった。2023年7月28日に「第一回熊本県心リハ推進検討会(県内全体会議)」を開催し、県内50施設から100名以上が参加。この会議により熊本県心臓リハビリテーション推進協議会の結成に至った。まず、(1)医療者から全ての適応患者に対する確実な説明実施、(2)心リハ専門家・実施施設増加、(3)施設間連携強化に取り組むことを短期的な目標に掲げている。急性期病院での患者への説明をサポートするために、県内全ての病院で用いることのできる患者説明資料の作成、多職種で連携した説明システムの構築に取り組んでいる。

8. 市民啓発

マスメディアと協力し市民や患者への啓発も行っている。これまでに、「月間くまもと経済2023年12月号」「熊本日日新聞2023年12月6日朝刊(<https://kumanichi.com/articles/1253802>)」「医師向けサイト「Dr. Well-B (<https://www.yokoso.dr-well-b.co.jp>)」2023年12月15日掲載」「熊本放送(RKK):2024年1月8日“市民公開講座特番”」「熊本放送(RKK):2024年1月13日“からふる”」「熊本朝日放送(KAB):2024年3月26日“くまもとLive touch”」で熊本県心リハ推進事業からの情報発信を行ってきた。2024年9月7日には市民公開講座を開催する予定である。